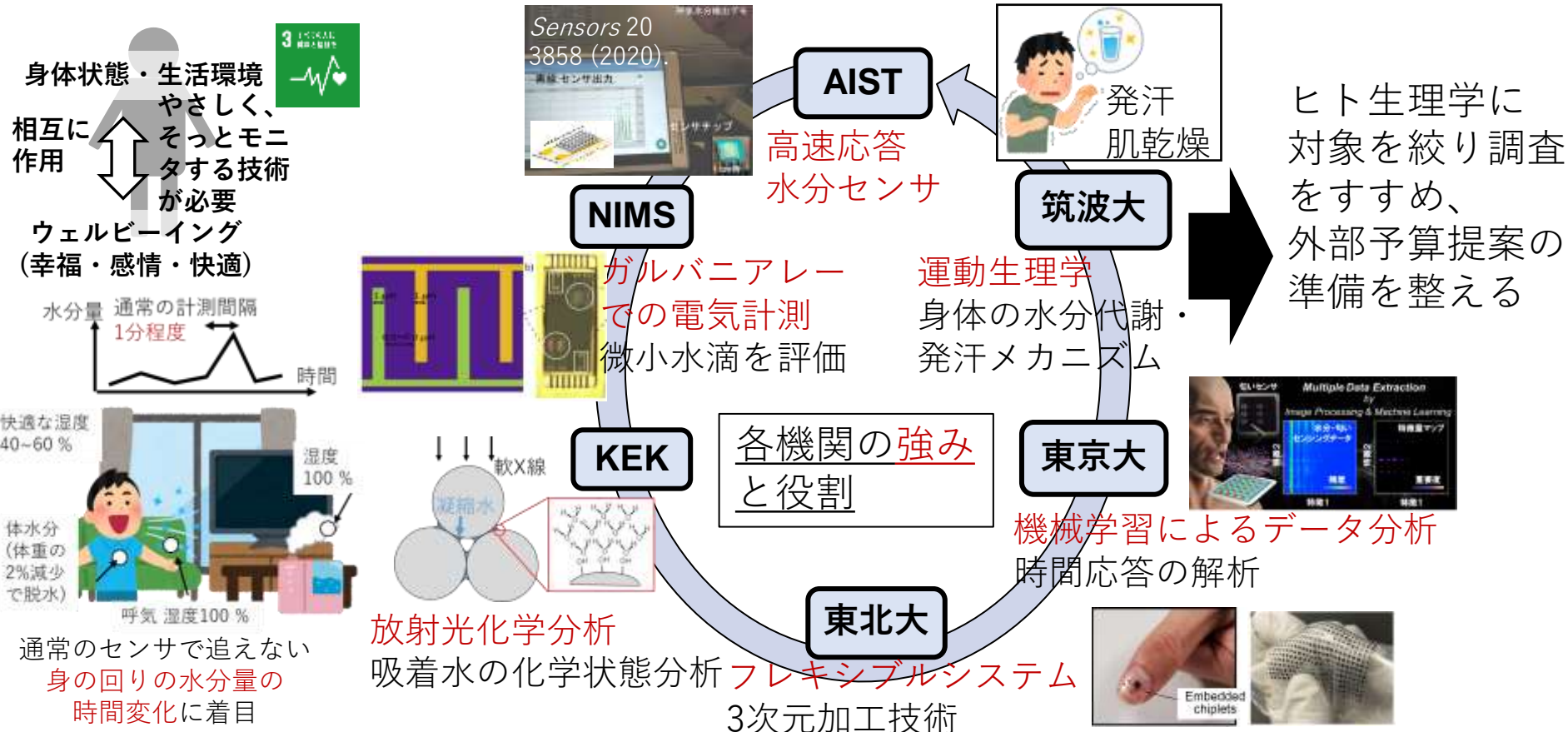


ウェルビーイングを向上させる健康モニタリング技術の研究

調査研究代表者：産業技術総合研究所 加納伸也

産総研代表者：情報・人間工学領域 人間拡張研究センター 加納伸也

ウェルビーイング向上につながる、生理学で活用できる健康モニタリング技術の調査研究を進める。ナノテク分野の技術シーズをもとに生理計測の高度化をねらう。水分を素早くとらえるセンサを活用し、身体の水分変化をとらえて健康モニタする仕組みを提案する。ナノテク・生理学分野で活動する研究者が連携し、大型予算の獲得・技術の社会実装をねらう。



R4年度の成果

顕微鏡

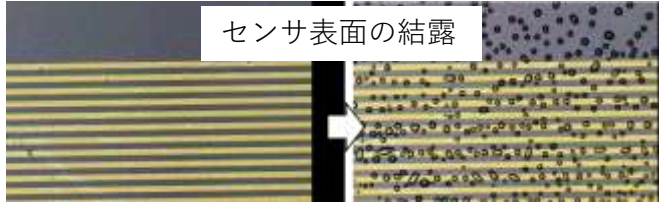


ナノ粒子付試料

産総研×NIMS

応答性向上のため、薄膜表面/内部での結露を評価。投稿論文に向けデータ収集。

センサ表面の結露



計測した試料



水分センサの高度化に関する連携



軟X線ビームライン (PF BL-19A/B)

R5年度の展開

技術を社会実装に近づける連携

ヒトの身体の水分変化から、健康管理ができるかを調査する



ヒトから放出される水分を検知

【年間活動計画】

4-8月 生理学研究に適したセンサの打合せ

9-12月 生理学研究で活用される従来センサとの比較・課題抽出

1-2月 成果のまとめ

並行して水分センサの高度化・次年度の予算提案計画を考案。

- ナノテク分野での物性計測・センサ開発に強みを持った研究者と、運動生理学に強みを持つ研究者が集まっている。個々の研究分野でも相互に連携発展することが期待できる。
- ヒトの身体の水分変化をとらえることで、脱水や身体の乾燥の予防といった、ヒトの健康課題の解決へとつなげる。本課題で成果を得た後、社会実装につながる競争的資金(A-STEP, NEDO, AMED等)獲得へと発展をねらう。
- 調査研究代表者を含む若手研究者の連携発展の場として、本研究課題を活用する。